

2019

3月27日(水)

発行日/2019年3月27日 (No.024)  
編集・発行所/元気das編集部  
東京都港区芝公園1-6-7-6 ※内容に関する  
問合せは0120-063711

元気das

Daily Magazine

SPORTS

ATHLETE TV

アスリートの  
言葉  
Word of  
an athlete

紀平梨花 Rika Kihira

FIGURE



「プライベートで行きたいところ？  
なさすぎてビックリする」

16歳でグランプリファイナル初出場の初優勝。一躍、新世代ヒロインとなった紀平梨花は、ことあるたびに浅田真央と比較される。トリプルアクセルを軽々と跳んで見せる姿や、年齢制限ぎりぎりでの前回のオリンピックに出場資格がなかった経歴も似ている。

紀平梨花自身も憧れの選手に浅田真央をあげ、小さい頃、全日本選手権を生観戦したときは、客席から「まおちゃん!」と声援を送り、「まおちゃんみたいなトリプルアクセルをとびたい」と書いた手紙を、リンクに投げ込んだことがあるという。

しかし、それぞれの発言を聞き比べると、個性は大きく違う。紀平の言葉で驚かされるのは、GPファイナルを勝った後のこれ。「筋肉の調整の仕方がわかってきて、試合のときに筋肉を良い状態に持っていけるようになったので、トリプルアクセルの成功率が上がりました」

お、おそろしい。これが16歳アスリートの言葉だろうか。

自分のトリプルアクセルにムラがあったのは、その日その日で筋肉の柔らかさや硬さが違うからだだと気づき、その調整方法を工夫して試合にのぞむことで、演技の安定度を増すことに成功したのだという。

一方、浅田真央は15、16歳の頃、あどけない天然発言がよく話題になった。

「次はノーミスしたい。目標はノーミスすることです」

世界女王になって変わったことはありますかという質問に、「飼っている子犬が大きくなってました」

トリプルアクセルはどうやって跳ぶのかという質問に対しては「よいしょって、跳びます」

と答えたこともある。この一言だけを頼りに、浅田真央=感覚派、紀平梨花=理論派、などと決めつけるのは早計にしても、そんなタイプの違いが頭に浮かぶ。

ちなみに紀平は身体能力の高さや、体脂肪率の低さもクローズアップされるが、テレビ出演時に「体脂肪率が6パーセントなんですよ? 女性の平均は25~30パーセントだから、すごい数字ですよ」と言われると、紀平本人が「測ってもらったら5.8パーセントでした」と、さりげなく、細かく訂正していた。この辺にも性格が表れている。

浅田真央との共通点を思わせる言葉もある。GPファイナルを勝った後、プライベートで何をしたいかと聞かれた紀平は「プライベート……特に考えてないです」

と、とまどい気味に答え、どこか行きたいところはあるかと問われると「……なさすぎて、自分でビックリする」と、困っていた。

これで思い出すのは、浅田真央の引退会見のときの言葉である。「私のすべてがスケート中心の生活だったので、本当に私の人生です」

毎日をフィギュアスケートに費やし、世界のリンクで闘うトップ・アスリートに、プライベートの質問など愚問なのだろう。

3月の世界選手権。紀平梨花は金メダルよりも、SPとフリーで自己ベストを出すことを目標に掲げている。そして大会後には、4回転ジャンプを本格的に練習することも明言している。その先に見据えているのは2022年の北京五輪だ。

SKATING



◎たばたいたる

五輪競技、競馬、野球を中心に活動。  
最も感動した五輪名場面は  
1976年モントリオールの男子体操団体の金メダル。